

関宮こども園3歳児と8年生のサツマイモ掘り 10 / 11

トライやる・ウィークでお世話になった8年生が、関宮こども園の3歳児を招待してサツマイモ掘りを行いました。園児に軍手をはめるところからのスタートで、苦勞している8年生の姿が微笑ましかったです。



マラソン大会 10 / 12

前期課程・後期課程同日開催のマラソン大会。大きな声援の中、子どもたちは頑張りました。



ふるさとキャリア学習会 P T A 教育講演会 10 / 14

養父市役所秘書課の朝日佳奈さんを講師に、「私の選択～養父市と高知とノルウェー～」という演題でお話いただきました。ノルウェー留学の興味深いお話を聞きました。



但馬連合音楽会合唱曲前期課程鑑賞会 10 / 18

20日に行われた連合音楽会に先立ち、前期課程児童が、後期課程生徒の全校合唱を聴きました。体育館に響き渡る歌声、迫力がありません。

本番も美しいハーモニーを響かせました。



新人戦結果

野球部(関宮学園・浜坂中連合) 但馬大会準優勝
男子バスケットボール部 1回戦惜敗 女子バスケットボール部 1回戦惜敗

「なぜ」を大切に～13歳からの論理的ノートから～

長年、小学校に勤務していた私にとって、後期課程図書室の蔵書は興味津々です。中学生になると、こんな本も手に取るようになるのだと思います。

『13歳からの論理的ノート』(小野田博一 PHP)という本があります。「論理的思考とは何か」「論理的に正しい文章を書くためにはどうすればいいのか」について中学生向けに書かれた本です。少し紹介します。

「論理的か否かを判定する際の『落とし穴』」

「本をたくさん読むととても疲れる。だから、私たちは本を読むべきではない。」という文を、多くの方はなんだか変だなと感じます。しかし、「暗い部屋でたくさん本を読むととても疲れる。だから、私たちは暗い部屋で本を読むべきではない。」という文だと、多くの方はそうだなと思います。前の文では「疲れるから」が「本を読むべきではない」を支えていないと感じるのに、後者は支えていると感じる。筆者によると、これは錯覚なのだそうです。「暗いところで読書をすべきでない」との意見に賛成しているために、論理がどうなのかが見えなくなっている例なのだそうです。

「省略されているものに注意」

文がくどくなるので、例えば、「柴犬は犬である」など当然のことと思われることは省略してもかまわないという原則があるが、明言してしまうと読み手に違和感を与えてしまうので、ごまかすために省略することがある。何が省かれているのかにも注意が必要だと述べられています。

論理的な思考を育てるために「疑問を持つ心を大切に」

日本人の場合、年を重ねるにしたがって「なぜ？」と聞くことが少なくなっている。それは、察する習慣を身に付けさせられるからなのだそうです。幼い頃の「なぜ？」の心が大切なのだと言われています。

今、情報があふれる社会となっています。その中には、怪しい情報も。結論が正しければ(主観的なものであっても)、でたらめな説明でもかまわないと考えている人もいます。子どもたちには、疑問を持つ心を大切に、本質を見極める力をつけてほしいと思います。この文章も論理的かなと思いながら、紹介しました。

